

# よさの地域デザイン会議 キックオフ しました。

8月22日、よさの地域デザイン会議「キックオフミーティング」をオンラインで開催しました。本会議は、年齢、性別、居住地区、肩書などが異なる多様な住民に参加していただき、持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方、それに必要な公共施設のあり方について、対話により多彩なアイデアや提案を収集し、「公共施設再配置計画」の策定へつなげることを主な目的としたものです。今月号では、その内容を紹介します。

## パネルディスカッション

### 与謝野町のあり方（デザイン）を考える

－ 総論賛成・各論反対をどう乗り越えるか －

登壇者 堤 洋樹 氏  
福知山公立大学地域経営学部  
准教授 杉岡 秀紀 氏  
与謝野町  
副町長 和田 和茂 氏

▼施設整備は単独（点）ではなく協働（面）で考えるべき  
▼施設整備には地域の声を聴くことが不可欠  
▼最後に、キーワードが飛び出しました。



パネルディスカッションの様子

最後は、杉岡准教授をコーディネーターに、和田副町長を交えて、「縮小社会のた

## 本当に必要なのか検討すべき対象は、「公共施設」ではなく「公共サービス」

縮小する社会において、公共サービスのあり方を考える

はじめに、企画財政課から本会議の設置の背景や、趣旨、そして社会の変化と公共施設の現状について説明しました。

▼人口減少と少子高齢化が進んでいる中、あと30年で与謝野町の人口は半分になり、また人口構造も急速に変化することが予測されている。

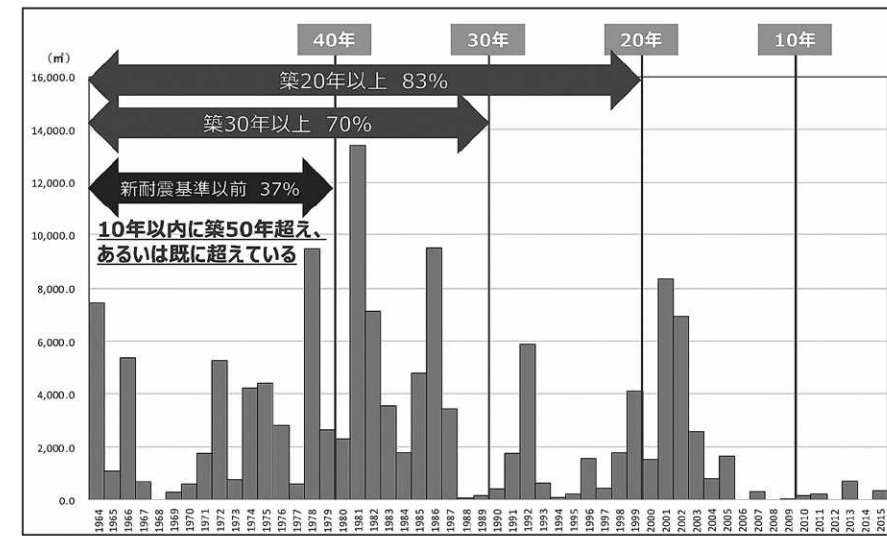
▼与謝野町には1977の公共施設（平成27年当時）があり、2031年には建築から40年を経過する施設が約70%に達するなど、今後多くの施設で改修や建て替えの時期が到来する。

▼中でも小中学校、保育所、こども園、利用の多い大規模集会所、体育館の多くが、築40年前後となっている。

▼これらすべての施設をそのまま維持・更新するためには、今後30年間で157.5億円不足（2016年時点）すると試算している。

▼縮小していく社会の変化と将来の負担を考え、公共施設への投資を考える必要性がある。

▼公共施設問題を先送りせず、今、進むべき道を決めていかなくてはならない時期が到来していると判断し、本会議を設置した。



公共施設の建築年数と述べ床面積（出典 与謝野町公共施設等総合管理計画）

は仕方ない（総論賛成）、私が使用している施設には手を出して欲しくないで欲しい（各論反対）」という意見が一般的に多い中で、3つの論点でディスカッションを行いました。

【論点】公共施設だけでなく、そこで提供される「公共サービス」を見るためのポイントとは？

▼認識の改めが必要

▼まずは体験。現場を見ることが見えてくるものがある。オンラインも活用できる。

【論点】多様な住民（とくにサラリー

マン・女性・若者）参加、職員参加を促すためのポイントとは？

▼住民参加 住民参画

▼自分の意見は全員の意見ではない。巻き込みがポイント。子どもも立派な意見がある！

▼最大のポイントは「多世代」を意識すること

【論点】他市町の事例を自分のまちに生かすポイントとは？

▼（政策）学習が大切「広域の視点も重要」

▼「公共施設と民間サービスのトレードオフ」「日ごろから自分たちのカススタマイズ」「自分プレイヤー！」

▼官民連携を上手に活用するためには、①民間企業が積極的であること、②自治体に民間企業のサポートを徹底的に行う体制があること、③経営面から収益が確保できること

地域デザイン会議に期待すること

▼将来の与謝野のまちづくりのあり方を考える場と機会にしたい

## ご意見・ご感想・ご提案は常に受け付けています！

よさの地域デザイン会議委員でなくても、本件についてご意見等を受け付けています。いただいたご意見等は、よさの地域デザイン会議で共有いたします。

【受付方法】住所・氏名・年齢・性別をご記入いただき以下のいずれかの方法で、企画財政課までお届けください。  
メール kikakuzaise@town.yosano.lg.jp  
ファックス 46-2851  
郵送 〒629-2292 与謝野町字岩滝1798番地1

講演

公共施設の再編と地域デザイン

講師 前橋工科大学工学部建築学科  
准教授 堤 洋樹 氏

必要なのは、「公民連携」+「住民協働」

「本当に公共施設が整備さえされれば、生活は豊かになるのか？」公共施設は公共サービスを提供する拠点であり、単に施設（ハコ）を提供することが目的ではない。この言葉からスタートした講演では、求められているのは「施設」ではなく「サービス」の改善と解されました。そのため、施設の使用方を変えるべき

▼あとは住民の皆さんの「やる気と本気」

与謝野町のあり方（デザイン）に正解はありません。しかし、多くの住民の皆さんの「納得解」を私たちは導き出すことが求められているのではないのでしょうか。

次回から、加悦・岩滝・野田川地域ごとにデザイン会議を開催します。情報は随時発信しますので、ぜひ注目ください。

※新型コロナウイルス感染症により延期する可能性があります